

【 パ ッ ケ ー ジ ソ フ ト 】

セル市場 1 月 度 レ ポ ー ト

◆————◆
< 2012 年 2 月 17 日 >

「音楽」以外にリードタイトルが不足した1月
12月の勢いは急速にシュリンクし、
前年を割る厳しい市況に

KRI 

キネマ旬報映画総合研究所

セル市場
1 月度レポート

【12月比較では、数量で69.71%、金額では80.4%と大幅減に】

11月、12月に回復の兆しを見せたセル市場だが、その勢いを新しい年に持ち越せなかった。多くの販売店から「音楽ソフト以外に目ぼしい作品が少なく、年末年始のにぎわいは3連休までで終わった」という声が出る状況で、厳しい1月商戦となった。調査会社GfK Japanの販売数量上位300タイトル集計によると、数量が199万2千枚、金額が106億3680万円。2011年最高だった12月（前月）との比較では、それぞれ69.7%、80.4%で、同年の月次売上に並べてみると、数量では7番目、金額では4番目に位置する売上規模となった。GfK Japanの当月集計期間が、年末商戦の売上の一部と年末発売の大型タイトルの初速を含む、12月26日から1月29日の5週分であることを考えると、1月の市場の急速なシュリンクぶりが実感できよう。ちなみに前年同月比は数量78.7%、金額95.9%だった。

【「音楽」が枚数シェア41.7%。56億円の販売金額は他ジャンルの倍以上】

販売店の声を裏付けたのが当月のランキングだ。なんと売上数量トップ15中13作品を「音楽」ジャンルが占めた。1位は8万3千枚を売り上げた『AKB48 / AKB48 よっしゃあ〜行くぞお〜！ in 西武ドーム スペシャルBOX』。同作の関連商品は、14位に『〜ダイジェスト盤』、15位に『〜第三公演 DVD』、38位に『〜第二公演 DVD』、61位に『〜第一公演 DVD』がランクインし、合計では14万4千枚のセールスとなった。2位『L'Arc〜en〜Ciel / 20th L'Anniversary LIVE - Complete Box - 【完全生産限定盤】』、3位『安室奈美恵 / namie amuro LIVE STYLE 2011』、4位『RADWIMPS / 絶体延命 完全生産限定版』と邦楽タイトルが続く。洋楽では、8位『CNBLUE / CNBLUE 2nd Album Release Live ~392~ @ YOKOHAMA ARENA』を筆頭に、9位『少女時代 / JAPAN FIRST TOUR GIRLS' GENERATION 【通常盤】』、11位『SHINee / SHINee THE 1ST CONCERT IN JAPAN "SHINee WORLD" 通常盤』と、K-POPが並んだ。トップ300に86商材が入り、トータル83万枚を売り上げた「音楽」は、シェア41.7%で他ジャンルを圧倒した。枚数300位合計の売上金額55億9049万円も群を抜く。

ジャンルでこれに続いたのが「洋画」。300位内102商材で、52万6千枚を売り上げてシェアは26.4%だった。「音楽」より16タイトル多くランクされながら、売上枚数は30万枚以上少なく、ここからもリード作品の不在が隙間見える。なにしろ当月発売「洋画」の最高位は、『アイ・アム・ナンバー4 ブルーレイ+DVDセット』の42位だ。売上金額では「音楽」のわずか5分の1強となり、「どれでも3枚3,000円」などで売られる低価格カタログ商材が広く、薄く稼いだことが分かる。「邦画」にいたっては、75位の『劇場版 仮面ライダー000 (オーズ) WONDERFUL 将軍と21のコアメダル コレクターズパック』を最高位に、300位までにわずか7作品が入ったのみ。枚数シェアはわずか1.6%だった。

6位『『カーニバル・ファンタズム』3rd Season』を筆頭に、1月もコアユーザー向けの作品が上位に並んだのが「アニメ」。300位までに74作品が入った。販売枚数では300位合計で42万4千枚と「洋画」に引けをとったが、金額では「洋画」の倍以上となる24億2531万円を売り上げ、店舗に貢献した。その他の注目ランキングは、5位『美男ですね コンプリートDVD-BOX』。1万9950円の価格で3万5千枚近くを売り、「音楽」以外のトップに。金額ランキングでは、AKB48、L'Arc〜en〜Ciel に続き3位にランクを上げる。21位『バーレスク』は、10月に廉価

化されてから毎月2万枚前後を販売しており、10月以降9位、19位、38位とコンスタントに上位ランクをキープしている。また39位『東京ディズニーシー マジカル 10 YEARS グランドコレクション』は、テーマパークでの先行発売から市販化された「OV」作品。力を入れて販売した販売店も多く、改めて“ディズニー・リゾート”のブランド力を感じさせる売上となった。

【廉価商材が中心のランキングの中にも各販売店の個性がうかがえる】

市場全体を引っ張るようなタイトルが不足する月は、各販売店のヒットチャートにそれぞれの個性が強く出る。店作りの違い、それが招く顧客の違い、結果として現れる売上の違い。大手販売店チェーンの売上前年比は、音楽ビデオを含める映像商材では95～85%に分かれる。音楽ビデオを除くとさらに5ポイント程度悪くなる。代表的なチェーン店本部の1月の状況は――。

- CD・DVD販売店A社……音楽以外目ぼしいタイトルが少ない1月。特に洋画はひどかった。12月16日発売の『トランスフォーマー／ダークサイド・ムーン』以降、男性ファンの買いたい作品が欠乏している。1月タイトルではないので当月チャートには上らないが、その欲求が2月3日発売の『ワイルド・スピード MEGA MAX』で爆発している。実力以上にはねている状況を見ると、ニーズは決して衰えていないと感じて心強い反面、求める商品を提供できないもどかしさを感じる。そんなわけで、音楽を除くと1月のトップは“どれ3”の『バーレスク』。以下、『ゴシップガール〈ファースト〉セット1(5枚組)』『アリス・イン・ワンダーランド』『ナルニア国物語/第3章:アスラン王と魔法の島』『ツーリスト』と続き、ベスト10中廉価商材以外は、⑦『ウサビッチ シーズン4』と⑨『ハリー・ポッターと死の秘宝 PART2』DVDのみだ。
- CD・DVD販売店B社……しんどい1月だった。音楽ビデオを含まないと、前年同月の8掛け。①『ナルニア国物語/第3章:アスラン王と魔法の島』、②『アバター』、③『カーズ2 DVD』、④『バーレスク』、⑤『ツーリスト』と、やはり上位には“どれ3”が並ぶ。もともとファミリー、キッズに強い当社だが、ディズニー・パークのアトラクションに関連付けたキャンペーンを1月中旬から実施したこともあって、ベスト10の半分はディズニー作品が占める特徴的なチャートになった。『東京ディズニーシー マジカル 10 YEARS グランドコレクション』は8位にランクしている。
- 家電量販店C社……あまり大きな弾がなく、小ぶりの売上の集積で何とか90%を少しきくくらいの規模まで作り上げたのが、リアル店の状況。ECを含めるとほぼ前年並みを維持した。ECの伸びは、昨秋から競合他社に合わせた価格戦略が、お客様に定着した結果だ。ECとの合計による金額ベースのランキングを出すと、いかにも当社らしい。①『『総天然色ウルトラQ』Blu-ray BOX II〈最終巻〉』、②『ONE PIECE Log Collection“ROCKET MAN”』、③『グリーン・ランタン ブルーレイ & DVD セット(初回限定生産)』、④『『総天然色 ウルトラQ』DVD-BOX 2』、⑤『劇場版 仮面ライダー000(オーズ) WONDERFUL 将軍と21のコアメダル コレクターズパック』となった。得手不得手が明確に出たランキングで、もう少し不得手な部分を伸ばしていきたいが、“諸刃の剣”という面もあって…。
- CD・DVD販売店D社……当社の1月度集計が12月21日～1月20日で、年末がよかったことに引っ張られて、まあまあ結果となった。特に音楽ビデオはよかった。音楽を除いても前年同月を少し上回れた。“どれ3”が大きな位置を占めるのは相変わらずだが、ディズニー、ジブ

リがここ2年で一番の成績となったことはうれしい限りだ。音楽を除くと、『美男ですね コンプリートDVD-BOX』がトップ。単価の高い商材なので抜群の貢献度だ。これに続いたのが『東京ディズニーシー マジカル 10 YEARS グランドコレクション』。デパートなどに出店の多い当店らしいチャートといえる。以下『カンフー・パンダ2 ブルーレイ+DVDセット (2枚組)』、『ハリー・ポッターと死の秘宝 PART2』DVD、『アバター』と続くが、とはいえ大部分の売上を音楽ビデオに依存しているのが、現実だ。